

「市川市少年野球連盟10周年を振り返って」



〔出席者〕 京 増 整 司
多 田 常次郎
福 岡 陽 一
〔司 会〕 岩 淵 義 男

岩 淵 本日はお忙しい中をおいで戴きまして有り難うございます。

市川市少年野球連盟が発足して、10年の歳月が経過したわけですが、今日は設立当時のことを思い出してお話をお願いいたします。

それでは、京増先生からお願いいたします。

京 増 初めは小学校単位で野球をやっていたまして、戦後は市川・真間・八幡・中山・国分の5校で春夏2回のリーグ戦を開いていました。

その頃は、野球を組織化してやるなどということではなくて、昭和25年頃、子ども会で野球をやっているというので、子ども会の野球に入って一緒にやったことを覚えています。会長は穂苅会長でした。

福 岡 当時は学校としてのチームがあったわけですか。

京 増 そうですね。とても盛んで、学校ぐるみでやっていました。

しかし、昭和43年に小学校の学習指導要領の改正があって、そこでソフトボール（野球）がなくなり、サッカーに変わってしまいました。ですからその頃までは野球の大会はあったはずですよ。

多 田 そのあとから子ども会での野球が活発になったわけですね。確か12か13のチームがあったはずですよ。小学校でやっていたものが全部子ども会に移行してきたのです。中学校も同じ時期だと思います。

京 増 青少年問題研究対策協議会、善行会、社会教育課などが協力して、子ども会の穂苅会長をバックアップしていました。

福岡 私が覚えている頃は、青少年相談員が中心になってやっていました。

多田 そう。その当時は相談員が一番盛り上がっていた頃でした。

岩淵 昭和43年に青少年課ができて、子ども会の管轄が社会教育課から移管され、少年野球も青少年課にきましたが、試合はしたいが審判がいないということで相談員が手伝ってやっていました。

多田 最初は野球の経験がある中学生などに審判をお願いしてやっていたのですが、いざ試合をすると審判に対するクレームが監督やコーチから沢山出て、対応できないことが多くなりました。

これでは教育上良くないという理由から相談員が審判をしようということになったわけです。青少年課もこまっちゃったんですね。

京 増



そうした、子ども会組織で少年野球をやっていることとは別に、市川野球協会でも学童部があって試合をしていましたが、協会は硬式野球だったように記憶しています。また、行徳には行徳野球協会があったと思います。

しかし、子ども会でチームを作ったものの練習場所や対戦チームが少なかったり、子ども会に属していないチームがあったりしていましたので、そうしたことの救済も含めて、野球そのものの資質の向上を図るのは行政機関の役目ではないかという意見もあり、青少年相談員、市子連、野球協会、青少年課の4者で少年野球連盟の発足に向けて協議を進めた次第です。

福岡 私たち相談員も何とか組織をきちんとしていたという希望はありましたね。子どもたちのためもありましたが、審判員や指導者のトラブルが多くて困っていましたから……………。

多田 そうですね。私も審判をやっていましたが、指導者や審判という子どもを指導する立場の人間が、教育的な立場からすると良くない行動を取っていたことに不安がありましたから、きちんとした組織化を望んでいました。

京 増 ですから当時の小出青少年課長は、青少年の健全育成ということを趣旨に組織づくりを推進したわけです。それと指導者の育成ということも考えて連盟創立当初から指導者講習会や少年野球教室を開催して大人のための指導にも力を入れていました。

岩淵 福岡さんはその頃からずっと連盟に足を踏み入れてしまっていることになりそうですね。

福岡 (笑い) ……私も野球協会にお世話になっていましたし、相談員もやっていましたから。

多田 連盟の組織づくりに当たって、中心になる人物を捜したわけですが、相談員で野球の好きな人や、地域で野球を指導している人たちにお願いして設立準備委員会を幾度となく開催して、多くの事柄について検討をしました。

岩淵 そうですね。私も会議に出席していましたが、市立図書館や社会教育会館でもやりました。

多田 最終的には昭和54年頃に概要はまとまったのですが、運営資金の問題でもめて発足まで時間がかかってしまいました。

京増 年度途中だったこともあって、行政からの支出も難しかったです。

岩淵 それで結局は2,000円会費くらいで始めましたね。

京増 そうです。翌年からは予算計上して市川市からも補助を出しました。

多田 それでやっと昭和55年2月に正式に発足したんですね。30年間、分散していた少年野球活動がやっと組織化にこぎつけたわけです。

福岡 でも設立当初は指導する側も分からないことが多かったので、野球協会にお世話戴いたことは心強かったですね。

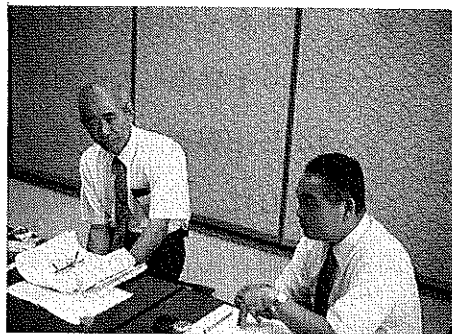
多田 審判をお願いして助かったことが沢山ありました。

岩淵 私は小出課長の前の森課長の当時、その頃の状況を説明したら驚いて「青少年課で少年野球を取りまとめるなんてできるのか」なんていう不安めいた言葉ももらいました。実際に私や多田さんも一日中グラウンドに立ちっぱなしで苦勞しましたから、そんな話を聞いて100を超えるチームをまとめることが出来るかなんて思ったんでしょうね。

多田 おにぎりをかじりながらやっていました。

京増 それから忘れてはいけないことがあります。その当時、私は育成指導係長だったのですが、管理係のみんなにも苦勞をかけてしまいました。行政が管轄しているのだからと言えばそれまでですが、当時は組織づくりをしたものの試合をする場所がなくて、少年広場の確保には何年もかかってお願いしたわけです。そのことは、現在まで続いていると思いますが……。

岩淵 昔は広場が少なくて学校を借りてやって



ましたから、よくガラスを割りましたね。

福岡 あ頃の6年生は、もう22歳ですから月日の経つのは早いものです。

岩淵 57年にガーデナに行った山田理事の息子さんも市立船橋高校に進学して甲子園の大会に出場しました。

福岡 少年野球出身の子どもの中で高校、大学と進学して野球を続けている者も沢山います。甲子園に行った子どももいます。最近では八千代松蔭高校の4番バッターの佐藤君は柏井フレンズの出身です。

多田 10年といえは多くの選手が活躍したことになります。大町若葉も強いチームでしたね。10年の間で8回も優勝するのは本当に偉業という言葉に値すると思います。

京増 やはり指導者がしっかりしているチームは、勝ち負けは別にして見ていて分かります。マナーや指導の仕方がしっかりしていますから。

岩淵 子どもの指導も必要ですが大人の指導も大切なわけですね。

それと、私がこれから提案したいのは平成元年の東葛飾地区少年野球大会が市川市で開催されたことでもあります。千葉県内で早い時期に県大会を実施したいということです。現在、県内の組織はバラバラの状態ということなので、市川市の大会で優勝したら東葛飾地区大会に出場して、優勝チームは県大会に出場できるという形にしたいです。

福岡



あと、そうした大会にも言えることですが、マナーや服装についても徹底しなくてはなりません。いま夏の大会ではチームの方々に審判を依頼することも多くありますし、ユニフォームのままで審判をしないで最低限の服装をお願いするなどして少しずつ改める必要があると思います。審判部については当たり前のことですが……。

マナーについても暴言に近い発言や指導、乱暴な戒めなどは見ていて気持ち良いものではありません。それから、健康管理や安全対策についても勉強する必要があるのではないのでしょうか。

炎天下の試合が多い中で、指導者として子どもたちに対しての安全管理は必要不可欠なことですし、ウォーミングアップや事前準備を欠かすと後々に障害が発生することになります。是非、お願いしたいことです。

岩淵 連盟でも昨年からスポーツ医学の講義や、健康管理についての指導を強化する

ようにしています。

福岡 これらのことも含めて、連盟の審判部での指導の徹底や審判部員の確保が大切ですね。中村審判部長も苦労しているようですから。

岩淵 最低でも審判部として40名は欲しいですね。

多田



審判員も試合審判をするということにとどまらず、野球技術や健康管理にも目を配る必要性に迫られていますね。大会等の運営に関連して色々なケースが生じるわけですから。

福岡 ですから、審判として大会を通じていけないことはいけない、正しいことは正しいとはっきりと表現しなくてはならないのです。

規律とかマナーとか、決まっていることについては審判部としての威厳をもって言わなくてはなりません。

多田 きちんとしたことを指導者が子どもに教える。この基本が最近はできていないことがあります。市内の大会で指示しておかないと、対外試合とかに出掛けた時に「市川市のチームはなってない」なんて言われてしまいますから気を付けないといけません。

あと、大事なことは指導者の育成という部分です。今の審判の皆さんも連盟設立当時40歳だった人は、もう50歳になっているわけですから。若手審判員を育てる必要に迫られています。

岩淵 連盟も10年経っているのですから、第1回大会に出場した子どもは22歳になっているって言われましたね。そうしたOBの中で、今も野球をやっている人は沢山いるはずですし、もうやめてしまった人でも機会があれば手伝いたいなんていう者もいるはずですよ。

福岡 そうした後継者発掘は各地域で積極的に行ってもらい、少年野球を卒業したあとは地域の活動に活かすべきですね。

運営に携わるとか審判をするとか仕事は沢山ありますから、若手を育成しながら地域の活動に溶け込ませることをする時期にきていることは確かです。

京増 青少年の健全育成を主眼に事業を行っているのですから、試合をすることだけにとどまらずに、若手指導者の養成をしなくてはなりませんね。

多田 同じ時期に戦った子どもたちが、何年か経って指導者とか審判員として顔を合わせるというのもいいですよ。その子が持っている素質を見出してあげるのも

大事なことです。

岩 淵 これから連盟がやらなくてはいけないことは、初心に戻った育成指導ということですね。

発足当時は、試行錯誤を繰り返しながら一生懸命になって、大会の運営や指導者の養成に取り組んでいましたが、10年の歳月が経つと最初の頃の意気込みが影をひそめる傾向になっていますから、もう一度基本に戻って運営に当たる必要が出てきたわけです。

京 増 青少年の健全育成ということを見失わないようにしなくてはなりませんね。

岩 淵 ということで、最終的な結論としては10年の節目を迎えたこの時こそ、もう一度設立当初に戻って活動全般を見直して、頑張ろうということで宜しいですね。

全 員 そうです。頑張りましょう。

岩 淵 本日は長い間、本当に有り難うございました。沢山のお話を聞かせて戴き、10年前の連盟を一時ですが振り返ることができました。

今後とも連盟の活動にご協力戴けますようお願いいたします。

◀平成元年8月16日 八幡「大黒屋」にて▶

少年野球で学んだこと～OB選手を迎えて～



国	府	台	篠	田	一	輝
北	分	台	中	村	浩	行
市	リ	ン	坪	井	松	雄
川	トル	スターズ	森	藤	省	一
平	田	サター	斎	田		実
稲		ンズ	山			崇
		越				
◆ 司 会			岩	淵	義	男
			中	村	勝	彦
			福	岡	陽	一

岩 淵 今日はお忙しい所を有難うございます。

市川市少年野球連盟が発足して10年を迎えるということで、連盟出身の選手OBの皆様においで戴いてお話をしてもらうことになりました。宜しくお願いします。

それでは、みなさんは連盟の第1回大会に出場した選手諸君だと思いますが、当時を振り返ってどんな思い出がありますか。

篠 田 野球教室で川上さんや篠塚選手に会えたことが思い出に残っています。

森 試合でいつもいいところまで行くのに優勝できなかったことが残念でした。

中村(勝) 山田さんは市立船橋高校に進まれて、甲子園大会に出場しましたが、連盟の事業でもガーデナ市に行きましたね。

アメリカの野球はどうなんですか。

山 田 日本の野球は小さい頃から練習も厳しく一生懸命にやっていますが、アメリカの野球は楽しんでやっているっていう感じでした。中学校までは友達と楽しく…



篠田 一輝



中村 浩行



坪井 松雄



森 省一



斎藤 実



山田 崇

それから自分で野球をどうとらえるかでしょうね。管理野球でないことは確かです。

中村(勝) 皆さんは小学校の頃に野球をやっていて、何か目標を持ってやっていたか。

篠田 やはり甲子園ですね。野球が好きだったからということもありますけど、反面やらされていたっていう事もありました。

福岡 親に言われて？

坪井 そう。それから坊主頭もいやでした。勿論、目標は甲子園でしたけれど。

岩淵 中学校ではしごかれるの。

中村(浩) しごかれましたよ。暗くなるまで。ランニングや兔跳びなどはいつもしていました。陸上部でもないのに、何でこんなに厳しくやらされるのかって思っていました。

岩淵 山田さんは市立船橋高校で甲子園に出場しましたが、野球部員は全員で何人ですか。

山田 50人弱でした。

中村(勝) 大変でしたね。皆さん高校に進学してずっと野球を続けていましたけれど、最終的にはやはり甲子園ですね。ひとつの憧れになっていますね。

ポジションは小学生の頃から同じでしたか。

全員 変わりました。

中村(勝) 斎藤さんはずっと遊撃手やっていて、高校で投手になりましたね。これも面白いことですね。

福岡 皆さんは小学校から野球をやってきて、当時から監督やコーチに色々教わりました。そして、数多くの知識を吸収してきたわけですから、今度は自分達が教える立場に回って子どもの野球に取り組んで欲しいですね。

岩淵 学んだことを無駄にしないで欲しいということですね。

福岡 小学生の頃に少年野球の審判員を見ていてどう思いましたか。

中村(浩) 昔はジャージで審判していたり、服装もバラバラでしたが最近は服装も統一されているみたいですね。

篠田 今思うと、子どもの野球は大変ですね。予想できないプレーがありますから目が離せないですね。

岩淵 少年野球をやっていて、何か感じることはありますか。

篠田 自分自身に自信が持てたということ。そして、何事も継続することが大切であ

るということです

坪 井 礼儀や健康管理について学びました。

森 ひとつのことに集中できたこと。それから、もっと多く試合をしたかった。試合慣れは必要ですね。

中村(浩) 団体行動とか合宿も楽しかった。でも小学校の時は友だちとの楽しい思い出ですが、中学生になってからは礼儀とか先輩後輩のけじめがあって苦しい体験をしました。

斎 藤 人間関係のつながりを学び場としてとても良かったと思います。それに加えて、全てにおいて自信とか継続することの大切さなどを学びました。

山 田 ここぞという時の頑張りにつながる。負けることに対して悔しいという気持ちが良い面で意識の向上にプラスになりました。

岩 淵 皆さんのお話を聞いて、小さい頃から野球をやっていて、自然と身に付く大事なものがあるようですね。

野球は9人でやるもの。チームワークが大切。私はいつもそう思っていました。が、しかし、それ以上に背番号をもらった選手の他に多くのチームメイトがいて、そうした人たちの協力や努力があるからこそ良いプレーができるわけです。

また、皆さん大きくなって気が付くことですが、小さい頃を振り返って「あの時、ああしていれば良かった」なんていう事が、沢山でてくると思います。そうした反省があるから進歩するのであって、それは当たり前のことですが一番大事なことなのですね。

福 岡 反省と、それから継続です。いつも脚光を浴びていることが、必ずしも良いことではなく、努力した結果がそうだったということです。レギュラーになれなかった多くの選手の努力を忘れてはなりません。

岩 淵 それでは、残り時間も僅かになりましたので、まとめさせて戴きます。

皆さんが小さい頃から学んだこと、経験したことが役に立つことがいつかあると思います。楽しかったこと、苦しかったことなど色々あると思いますが、この経験を生かしてこれからの生活に役立てて下さい。また、少年野球連盟も10年という節目を迎え、これからは指導者の養成もしなくてはなりません。その時には、是非ご協力下さいますようお願いいたします。

今日はどうも有難うございました。

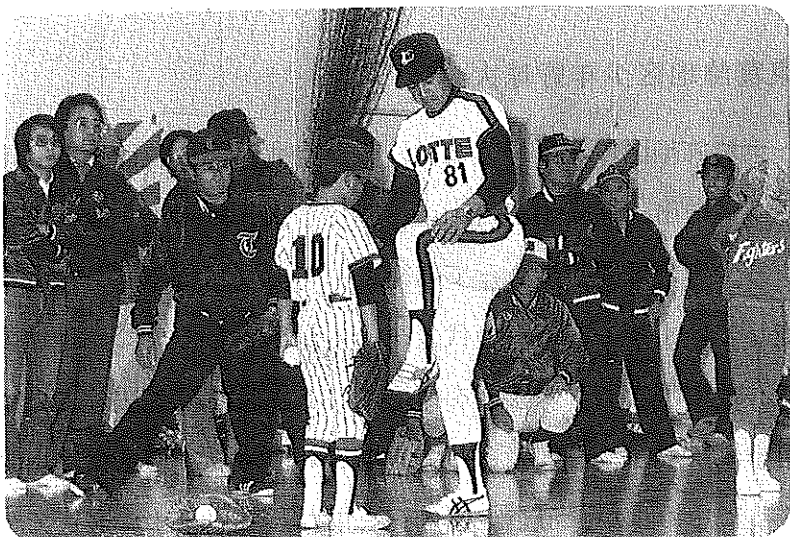
平成元年8月25日 南八幡「コーヒーショップストーク」にて収録



元巨人軍の中井選手
を紹いて基本練習か
らスタート

市内各地から選手が
集まりました

銚子商業出身でロッテ
の代表的な投手だっ
た木樽さんに来てい
ただき信篤体育館で
学ぶ



選手だけでなく監督
やコーチにも適切な
指導をして載しまし
た